

慶応二年七月十八日より慶応二年七月廿日まで

P8310609right

御同人出席右へ退朝より相廻る、明日濱御庭相見御□□相成、本第八帰宅、

須崎(常)来りし旨、保三兩度来りし旨、明日英国留学生吟味に罷出よしによる旨、

十八日 戌 晴

保三来る、金港和春より甲州兩名外英パークス随歩の故云よし伝承にて申来る返翰案しらべ

来翰とも甲州方へ廻し遣す、この程伊左衛門改府よりの贈り品九種宿寺詰より届け来る、周助病故□□の趣により長春院を別段に招く、柳亭稽古に来る、墨陀邸修復料四兩を渡す、英国

ミニストル其外一行拾五人(内婦人一人)濱御庭相見御許□□に付、第十一時同所へ出役し午下第

二時右一行船にて来り相見西瓜シャンハン等を設く第四時相済薄晩前帰宅。保三

留学生吟味済にて□よりし旨、

P8310609 left

十九日 亥 雨

日記 土屋豊州方へ大助転進の周旋を頼遣す、洋酒二瓶を贈る、坂地磁器□□半切二套酬いる、出殿、詰番退散薄晩に近し

の 日 殿、詰番退散薄晩に近し

守勝院殿三回忌、浄空院殿十三回忌(取越)に付、礫門、番町坂町向島三筋町、伊藤花川戸

田大塚藤山寺山(□もの、廿づつ)周助(四□のもの二十)久左衛門(同十七、中小姓五人、重辰、七婢、中番、□□□三□)五つづつ別当(日九つ)志の重

柴遣す、御逮□の設、吸物三つ物、茶碗盛、本膳□引附、二拾人前(老人前廿四匁づつ)次前

旗汗平向附け香の物拾九人前(老人前七匁づつ)極下の用達式その外にふち高入、蒸し菓子拾八(十匁づつ)式拾匁

載茶半仕包拾七(是は□前へ)拾匁茶半斤包式(周助、久左衛門)同四半斤包拾七(次前分也)夫々へ命ず、出

私 殿、

公 殿、

( )内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。